



安佐町

久地 くち

細長い地形が地名の由来 残し続けたい故郷の景色



145年の歴史がある久地小学校（令和元年6月撮影）

久地の地名の由来については、諸説あるようです。その内の一つが、細長い地形的なものから「久」の地となったのではないかと。

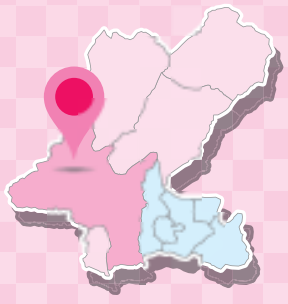
もう一つは江戸時代の年貢を納めるのに、久地のほとんどが百石以上の武士に給与として支給される「給地」であったことから久地と呼ばれ始めたと言われる説があります。

いずれも確証があるものではありませんが、久地の地形は細長い地形であることには間違いありません。

久地地区には、昭和40年代まで旧魚切小学校、旧宇賀小学校、旧高山（高原）小学校と久地小学校の四校がありました。その後、統合により久地小学校のみとなり、昭和56年に久地南小学校が分離し、新設されました。そして、145年の歴史のある久地小学校が令和2年4月で飯室小学校と統合されます。

久地は時代の変化によって、だんだんと住む人が減り、集落が無くなってしまふところも出てきています。残念なことですが、久地のこの

素晴らしい山、川、空の景色は変わるものではありません。住んでいる者としては、この景色を大切に、できるだけ多くの方に見てもらえるように頑張って維持していきたいものです。



くち 久地小学校	
明治7年	久地村に啓蒙社として創立
明治41年	水口尋常小学校と魚切尋常小学校を合併、久地尋常小学校を創立
昭和45年	宇賀小学校を統合
昭和46年	魚切分校を統合
昭和56年	久地南小学校新設
令和2年4月	飯室小学校と統合





平成30年11月撮影



久地の小学校の沿革

旧宇賀小学校

明治13年 設立
昭和45年 久地小学校と統合



旧高山(高原)小学校

明治21年 設立
昭和40年 旧宇賀小学校分校となる
昭和44年 旧宇賀小学校と統合



旧魚切小学校

明治9年 設立
昭和46年 久地小学校と統合



※各小学校の沿革は「百年誌 くち」から引用



300年前に移転再建
夏と秋に祭り

2 みずくちじんじや
水口神社

元々は、川井北原古八幡にあったが、社殿が火災にあい、300年に現在地に再建されたという記録が残る。毎年、神社の夏越祭りが7月最終週日曜日に、秋祭りは10月第2週の土日に開かれ、神楽が上演されている。

650年の歴史
庭の松の木から航空燃料へ

1 さいしょうじ
西正寺



西正寺の庭の松
航空燃料用に油分を採った
傷跡が残る

久地に金山があった頃の650年前に建立された。建物は明治22(1889)年頃に改修され、現在に至る。第二次世界大戦中、日本軍が、松の木から油分を採って航空燃料を抽出していた。この西正寺の庭の松からも取られた名残りが今もある。

名物の樹齢約300年の松
枯れても門徒が保管

4 みょうほうじ
明法寺

今から400年前に本願寺顕如の弟子が出家し、久地北原地区に建立したといわれている。寺の庭には樹齢約300年の松が経蔵の下を這うように生えていた。残念ながら枯れたが、残木は門徒により大切に保管されている。



明法寺の庭の松
在りし日の姿



西日本有数のシャクナゲが咲く
花木や鉢花、園芸用品の販売も

3 ふれあいのさと みくにはなみどりこうえん
ふれあいの里 三国花みどり公園

安佐町は昭和30年代後半に「緑と詩の町」として自然休養村づくりをしてきた。公園内には、「シャクナゲの国」「わんぱくの国」と名付けられた場所やグラウンドゴルフ場があり、「わんぱくの国」には「見晴らしの丘」やドッグランがある。

完成は大正時代
宇賀ダムからの水で発電

6 まのひらはつでんしょ
間野平発電所

発電は、宇賀ダム経由と津伏堰堤～宇賀ダム前の水路橋経由の2系統で発電所まで送られてきた水の落水で行っている。落水した水は、さらに地下を通して太田川発電所まで送られる。



大正 14(1925)年完成 9,500 kW
昭和 34(1959)年増設 15,000 kW
計 24,500 kW 出力

太田川から発電所への水路橋



農村文化の体験施設
野菜栽培、里山整備、自然体験等

5 ひろしまみんのさと あさ
ひろしま市民の里@安佐

市民が、いつでも自由に参加して、農業、林業など農村文化を体験することができる。荒れ地の開墾、里山の整備、米や野菜の栽培、農産物の加工、農村文化の体験、里山の自然体験などができる。

久地くち



**水力発電用に造られたダム
水内川からも流れ込む**

完成 昭和 34(1959)年
堤高 31.5m
堤長 108m

8 うがだむ 宇賀ダム

宇賀峡入口にある。取水は上流の高山川のも、太田川上流の吉ヶ瀬発電所からと水内川から地下トンネルでダムに流れ込んでいる。ダムからは再び、トンネルで間野平発電所へ流れている。



**季節ごとの自然を生かした体験活動ができる
ウォーキングの拠点としての利用も**

7 くちきた・おおたがわけんきむら 久地北・太田川げんき村

気軽に訪れることのできる地域に開かれた施設。「山野草を食べる会」「ホタルの夕べ」「しめ縄づくり」「梅の剪定」「手打ちそばづくり」等を行っている。ウォーキングのスタート地点としても利用可能。



**地区の住民が管理
境内からは宇賀ダムを臨める**

10 しょうほうじ 正法寺

住職が亡くなり、現在は地区の住民によって管理されている。境内から宇賀ダムや田んぼを眺めることができる。裏手の石段(右下の写真)を上ったところに観音堂(右上の写真)がある。



**高山川沿いに自然豊かな峡谷
溪流にはヤマメや山野草も**

9 うがきょう 宇賀峡

宇賀ダムから高山川沿いを約6km進むと高山地区へ着く。高山川には太田川漁協が毎年、ヤマメを放流し、4月1日の解禁日には多くの釣り人が腕ふるっている。



旧高山小学校跡



**急坂が続く中級者コース
山頂直下の岩場は要注意**

12 くちかんむりやま 久地冠山

標高572.6m。登山道は分かりやすいが、急坂なところが多くある。間野平発電所そばから登り、下山は途中から宇賀ダム側へ下りる道もある。いろいろな景色の変化を楽しむには良いコース。



**太田川に架かる赤い吊り橋
木製の床板からの眺めは絶景**

11 うがおおし 宇賀大橋

宇賀大橋は太田川にかかる吊り橋。すぐそばには、廃線となった旧JR可部線の長い鉄道橋(右の写真手前)が残っている。また、太田川の真ん中には黒い浮石、通称「小河内ザウルス」(右下の写真)がある。



(橋の長さ) 140.5m
(高さ制限) 3.5m (重量制限) 1t

